



昇る朝日を浴びると、外壁のクリーム色が輝きを増す。
岸本瓦町邸。東横堀川に架かる大手橋の西詰正面に立つ。天保2年(1831)創業の鉄商、岸本商店の5代目岸本吉左衛門の本邸として、1931年(昭和6)に建設された。
鉄筋コンクリート造2階建て、屋根が平らなフラットルーフ。縦横に走るシンプルで力強い直線と、大小の箱を組み合わせたようなシルエツトが、モダンな様式美を醸し出す。
設計は住友工作部の笹川慎一。石貼りの外壁には、北浜の

東局 ●

岸本瓦町邸 ○

本町通

本町橋

大手橋

大阪市中央区瓦町1-2-1
TEL.06-6231-4793
邸内は非公開



先進的な事業に挑戦するとともに、芸術をこよなく愛し、社会貢献にも代々情熱を注ぐ。東横堀川に面した洋館と向き合つと、モダン大阪を切り開いた実業家の実り多き人生が、今なお香り立つ。

先進的な事業に挑戦するとともに、芸術をこよなく愛し、社会貢献にも代々情熱を注ぐ。東横堀川に面した洋館と向き合つと、モダン大阪を切り開いた実業家の実り多き人生が、今なお香り立つ。

本邸が建設される以前には、蔵が立ち並んでいたという。東横堀川で運んできた船荷を陸揚げし、蔵で保管していた。蔵から近代ビルへ。モダン大阪の勢いが、東横堀川の景色を変えていく。
岸本は美術品の鑑定にも才能を示す。コレクションの収集に務めながら、芸術家との交流を深め、若いアーティストの育成に取り組んだ。
岸本家は篤志家としても知られ、大阪市に多額の浄財を寄付。25年(大正14)、浄財を基に市立病院が建設され、現在の市立大学医学部付属病院の母体となった。

本邸が建設される以前には、蔵が立ち並んでいたという。東横堀川で運んできた船荷を陸揚げし、蔵で保管していた。蔵から近代ビルへ。モダン大阪の勢いが、東横堀川の景色を変えていく。
岸本は美術品の鑑定にも才能を示す。コレクションの収集に務めながら、芸術家との交流を深め、若いアーティストの育成に取り組んだ。
岸本家は篤志家としても知られ、大阪市に多額の浄財を寄付。25年(大正14)、浄財を基に市立病院が建設され、現在の市立大学医学部付属病院の母体となった。

旧住友ビルディングと同じ竜山石が使われている。見比べると、住友工作部の作品としての統一性がうかがえよう。
98年(平成10)、国登録有形文化財に登録された。邸内は非公開だが、各部屋にマントルピース(暖炉)を設え、英国調の重厚な空間づくりの配慮が行き届く。

旧住友ビルディングと同じ竜山石が使われている。見比べると、住友工作部の作品としての統一性がうかがえよう。
98年(平成10)、国登録有形文化財に登録された。邸内は非公開だが、各部屋にマントルピース(暖炉)を設え、英国調の重厚な空間づくりの配慮が行き届く。

平野橋

東横堀川河岸公園

東横堀川 大手橋 西詰

遠望すると、雄大な三品がオーラを放つ。近づくにつれ、繊細なる匠の目を奪われる。川岸に佇む近代建築の一品。

モダン大阪の 華やいだ風格。 岸本瓦町邸

国登録
有形文化財